

2005年10月から2013年4月までに当院に発症から24時間以内に脳梗塞の診断で入院された患者さんへのお知らせ

「発症24時間以内の脳梗塞例の転帰に関する因子の検討に関する研究」に関する情報開示

平成25年 8月 8日  
川崎医科大学附属病院  
脳卒中科 青木淳哉

2005年に、我が国でも発症3時間以内の脳梗塞患者さんに対するt-PA療法が認可されました。t-PAは血液の固まりを溶かす作用がある薬です。固まりを溶かすことで、血流の流れをよくし、後遺症を最小限にする可能性がある薬です。ただし、この治療の適応となる患者さんは、全体の3%程度しかいませんでした。より多くの患者さんがこの治療の恩恵を受けられるように様々な研究が国内で行われました。その結果、我が国でも2012年9月からt-PA療法の適応は発症4.5時間以内に拡大されました。また、当院では、発症時間がわからない場合でも、頭部MRI検査の結果で発症時間を推定し、t-PA療法を行う研究も行ってきました。このように、少しずつ医療は進歩していますが、それでも、このt-PA療法を受けられる患者さんは全体の10%にも届きません。そこで我々は、改めて、今まで当院に入院された脳梗塞患者さんの診療データを用いて、より良い治療方針を考えようと計画しています。

対象は2005年10月から2013年4月までに当院に入院された発症24時間以内の脳梗塞の患者さんです。診療で得られた画像検査結果（CT、MRI、エコー、カテーテル検査）所見と脳卒中の重症度スケールや治療法を解析します。この研究で得られた内容を学会や科学雑誌で公表することについてご理解とご協力を頂きたく存じます。患者さんの情報については個人名や個人を特定できるデータは伏せており、当院の個人情報保護規定に従って厳密に管理し、第三者が閲覧することはありません。また、この研究で患者さんは不利益を被ることはないと考えております。なお本研究は当院倫理委員会の承認を得ています。研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では学内研究費のみを使用するため、この様な利益相反の状態にはなりません。この研究に対して、ご質問がある方は、下記担当者までご連絡ください。

担当 川崎医科大学 脳卒中医学教室 講師 青木淳哉  
岡山県倉敷市松島 577 電話： 086-462-1111（代）  
Fax： 086-462-1199